

9. 身近な地域での助け合いについて

問29 あなたはちょっと困ったことがあった場合に、家族・親戚以外で相談できる近隣の人や友人が身近にいますか。(あてはまるものを1つ選んでください。)

1	いる	609	37.8%
2	どちらかと言えばいる	353	21.9%
3	どちらかと言えばいない	293	18.2%
4	いない	337	20.9%
	無回答	17	1.1%

問30 あなたは身のまわりのことで、ちょっと困ったことがあった場合(今はなくても今後何かあった時を含む)に、誰に相談できるとよいと思いますか。

(あてはまるものを3つまで選んでください。)

1	近隣の知り合い・友人	893	55.5%
2	近隣以外の知り合い・友人	485	30.1%
3	仕事での知り合い・友人	429	26.7%
4	趣味やお稽古ごとの知り合い・友人	229	14.2%
5	家族・親戚	1241	77.1%
6	区役所	394	24.5%
7	病院	188	11.7%
8	自治会・町内会	81	5.0%
9	民生委員・児童委員	87	5.4%
10	地域ケアプラザ	177	11.0%
	無回答	16	1.0%

問29では「困ったことがあった場合に、相談できる人が身近にいるか」を質問した。「どちらかといえば」を含めて「いる」と答えた人が59.7%とほぼ6割に達しており、「どちらかといえば」を含めて「いない」と答えた人は39.1%でほぼ4割となっていた。

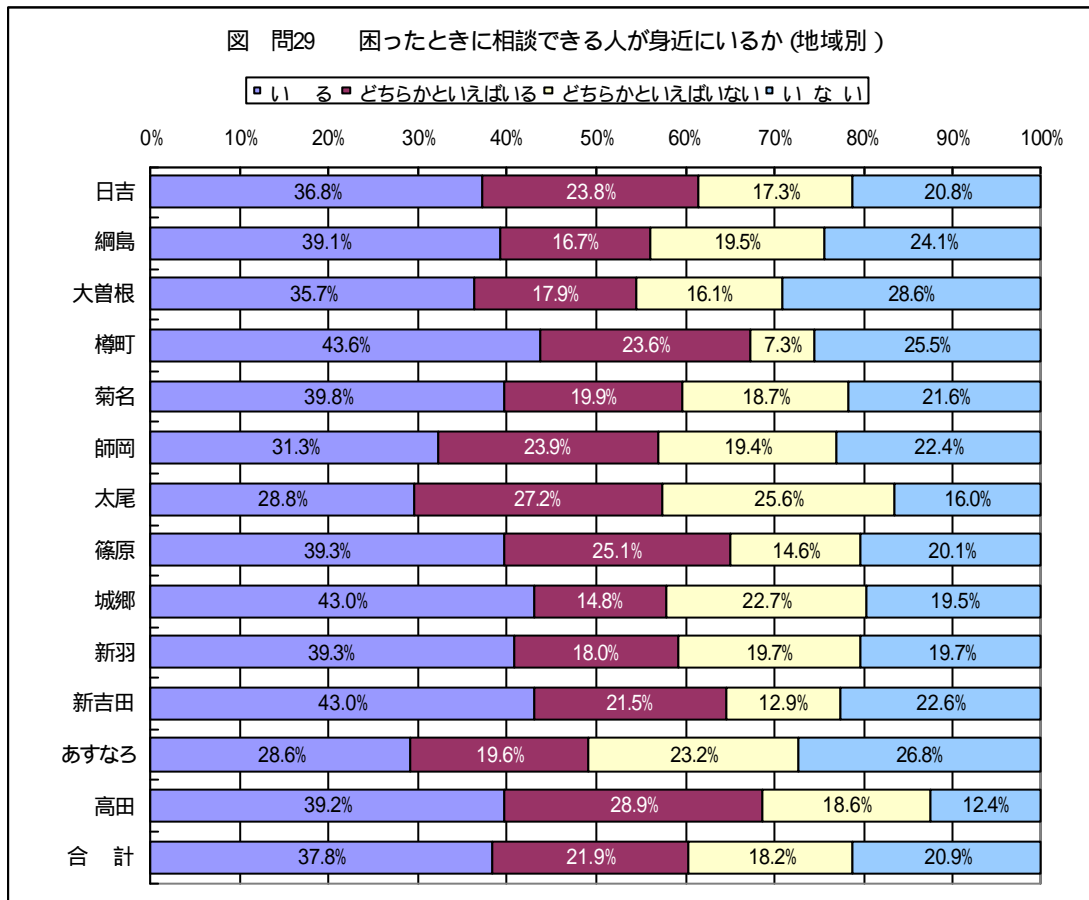
地域別に見ると、「どちらかといえば」を含めて「いる」と答えた割合が高い順に見ると、高田、樽町、新吉田、篠原地区で平均を7～5ポイント上回っていた。逆に低い順では、新吉田あすなろ、大曽根地区では平均より9～6ポイント低くなっていた。

回答者の属性で見ると、「どちらかといえば」を含めて「いる」と答えた人は、性別で女性が男性を17ポイント以上上回っていたが、年齢別では変化が見られなかった。

家族構成別では、「いる」と答えた人は「3世代」が平均を8ポイントほど上回っていた。

子どもの年齢別で見ると、「子供はいない」層は「いる」が平均を8ポイント下回っているのに対して、子供のいる人は「19歳以上」を除いて平均を5～10ポイント上回っていた。

就労状況別では、「専業主婦」、「自営業」、「パートアルバイト」で11～7ポイント高くなっていた。



また、問 29 の困ったときの相談できる人が「いる」かどうかと、問 20 の「地域への愛着」とをクロス集計してみた。地域への愛着が「とてもある」と答えた人は、困ったとき相談できる人が「いる」「どちらかといえばいる」を合わせて「いる」割合が最も高くなっており、地域への愛着が少なくなるにつれて「相談する人」が少なくなっていく傾向が明確に現れていた。

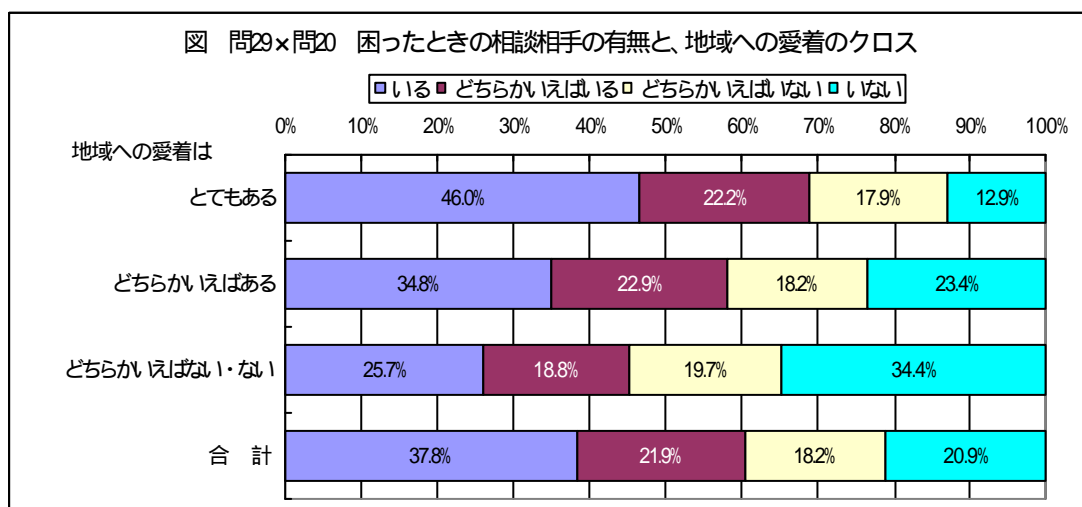
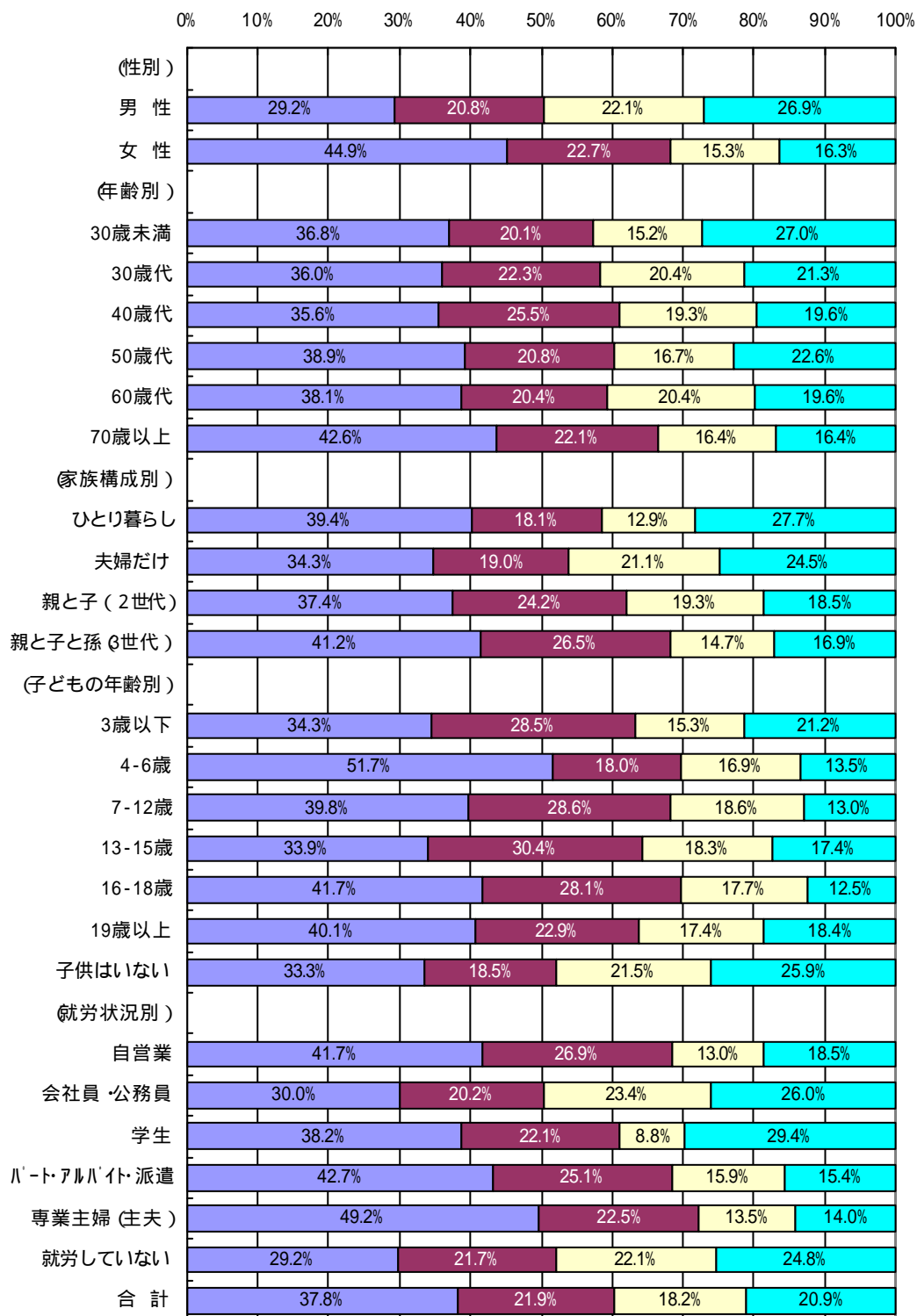


図 問29 困ったときに相談できる人が身近にいるか
(性別・年齢別・家族構成別・子どもの年齢別・就労状況別)

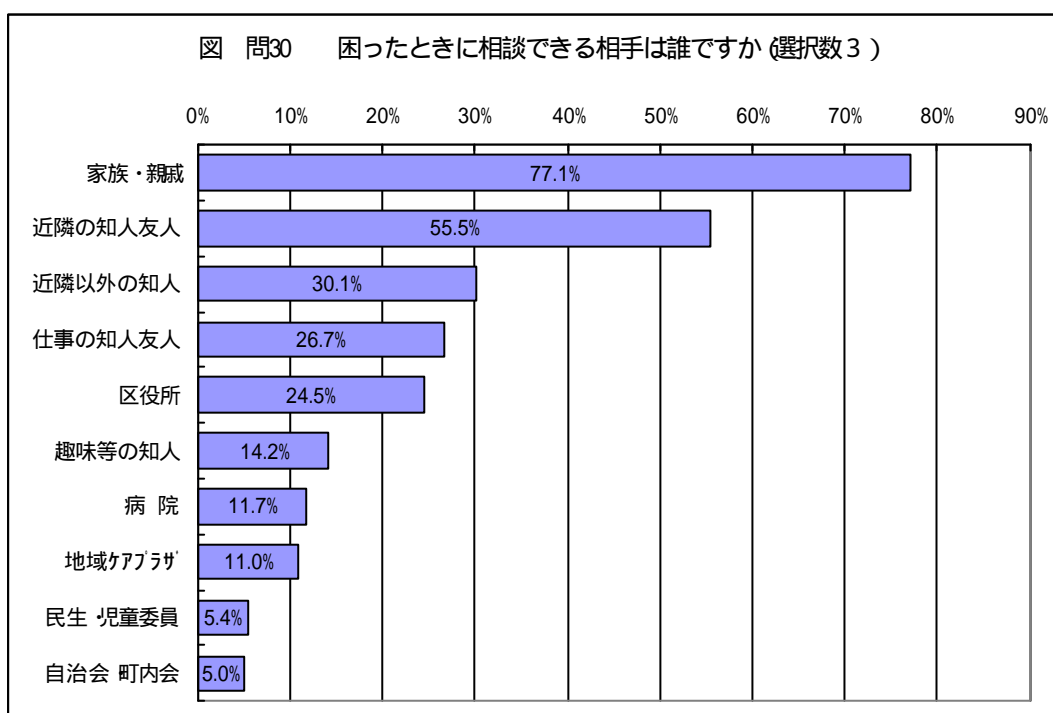
□い る ■どちらかといえばいる □どちらかといえはいない □い ない



問 30 では「困ったことが起きたときに相談できる人は誰か」を聞いた。トップは「家族・親戚」で最も多く 8 割近くとなっており、「近隣の知人友人」が 5 割を超え、「近隣以外の知人」が 3 割、「仕事の知人友人」「区役所」が 2 割の半ばで続いていた。

地域別に見てみると、順位を逆転するほどの変化はなく、新吉田あすなろ地区で「家族・親戚」が 87.5 %、日吉地区で「近所の知人友人」が 61.2 %、新羽地区で「仕事の知人友人」が 36.1 %とそれぞれ平均を 10 ポイント高くなっているほか、大きな変化はなかった。

回答者の属性で見ても、年齢別で「30 歳未満」と、家族構成別で「ひとり暮らし」、子どもの年齢別で「子供はいない」、就労状況で「会社員・公務員」で「仕事の知人友人」が平均を 10 ポイント高くなっており、順位も 3 位となっていることなどのほか、目立った変化は見られなかった。



問28 あなたはちょっと困ったことがあった場合（今はなくても今後何かあった時を含む）に、近隣の方に助けてもらいたいことは何ですか。

（あてはまるものを3つまで選んでください。）

1	声かけや安否の確認	877	54.5%
2	ごみ出しの手伝い	168	10.4%
3	買い物の手伝い	143	8.9%
4	お総菜の交換	31	1.9%
5	子どもの預かり	204	12.7%
6	通院や通学、施設への行き帰りの付き添いや送迎	303	18.8%
7	部屋の掃除や片づけ、草むしり	88	5.5%
8	話し相手・相談相手	442	27.5%
9	家族の急用時にお年寄りや障害者に付き添う 留守番	278	17.3%
10	特になし	490	30.5%
	無回答	30	1.9%

問31 近隣の方で、ちょっと困っている人がいた場合に、あなたが頼まれてできると思うものはどれですか。（あてはまるものを3つまで選んでください。）

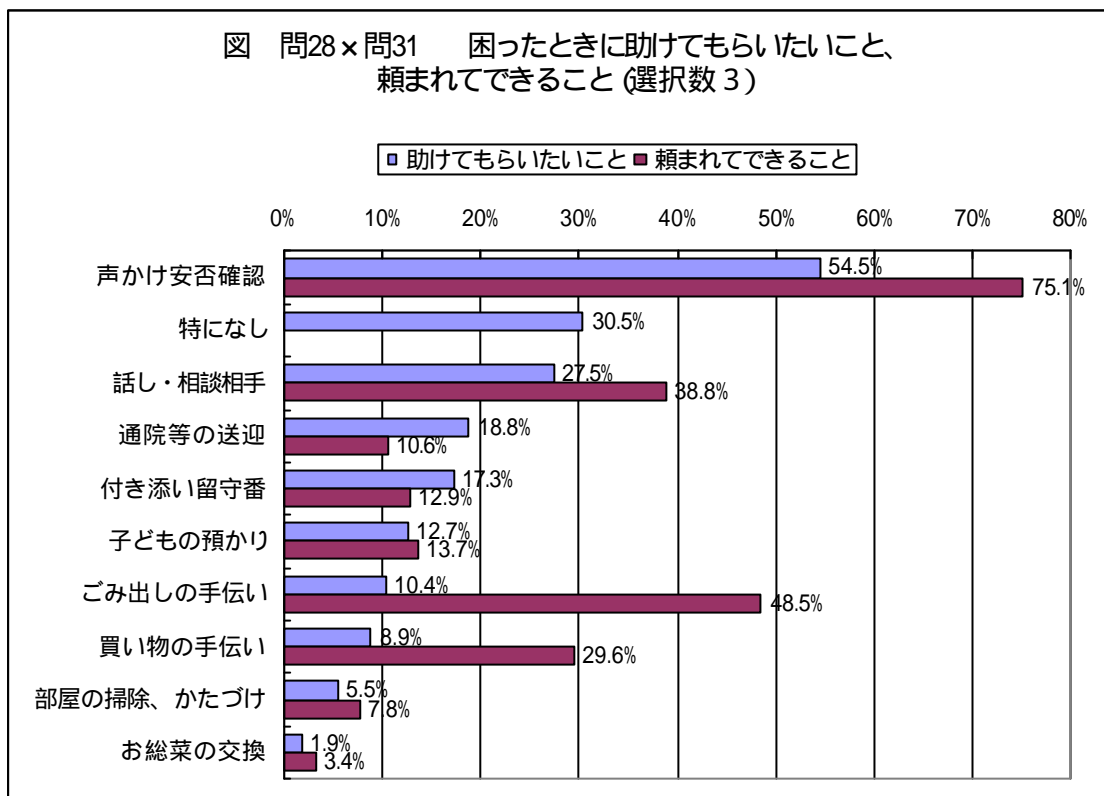
1	近隣への声かけや安否の確認	1209	75.1%
2	ごみ出しの手伝い	780	48.5%
3	買い物の手伝い	476	29.6%
4	お総菜の交換	54	3.4%
5	子どもの預かり	221	13.7%
6	通院や通学、施設への行き帰りの付き添いや送迎	170	10.6%
7	部屋の掃除や片づけ、草むしり	125	7.8%
8	話し相手・相談相手	625	38.8%
9	家族の急用時にお年寄りや障害者に付き添う 留守番	207	12.9%
	無回答	88	5.5%

問28で「困ったことがあった場合、近隣の人に助けてもらいたいこと」を質問し、問31では「困っている人がいた場合、頼まれてできること」を質問した。

問28の「助けてもらいたいこと」の一番高かったのは「声かけや安否の確認」で54.5%で半数以上の方が望んでおり、「話し相手・相談相手」が3割近く、「付き添いや送迎」が2割弱となっていた。しかし、「特になし」が3割もあり近隣の手助けをあまり必要と感じていない様子がうかがわれた。

問30で「頼まれてできること」について質問したが、「声かけや安否の確認」が約4分の3の人から、「ごみ出しの手伝い」が5割近く、「話し相手・相談相手」が4割近く、「お総菜の交換」が3割近くから出されていた。近隣から助けてもらうよりも、手助けをする

ことに積極的な姿勢が伺われる内容であった。



問 28 の「助けてもらいたいこと」について、地域的な差はほとんど見られなかった。また、回答者の属性で見ても、年齢別で「60 歳以上」で「声かけ安否確認」が高いこと、年齢別で「30 歳代」と「12 歳以下」の子供のいる層では「子供の預かり」の要望が高かったこと、年齢別で「30 歳未満」と「ひとり暮らし」の層からは「特になし」が平均を 7 ~ 8 ポイント高くなっていたことを除いて、大きな変化は見られなかった。

問 30 の「頼まれてできること」についても、地域的な差はほとんど見られなかった。回答者の属性で見ても、女性が「買い物の手伝い」で男性を 17 ポイント上回っていること、年齢別で「40 歳代」で「買い物の手伝い」が 15 ポイント、「70 歳以上」で「話し相手・相談相手」が 10 ポイント平均を上回っていたことなどを除いて、大きな変化は見られなかった。

図 問28 近隣の人に助けてもらいたいこと (選択数3) (性別・年齢別)

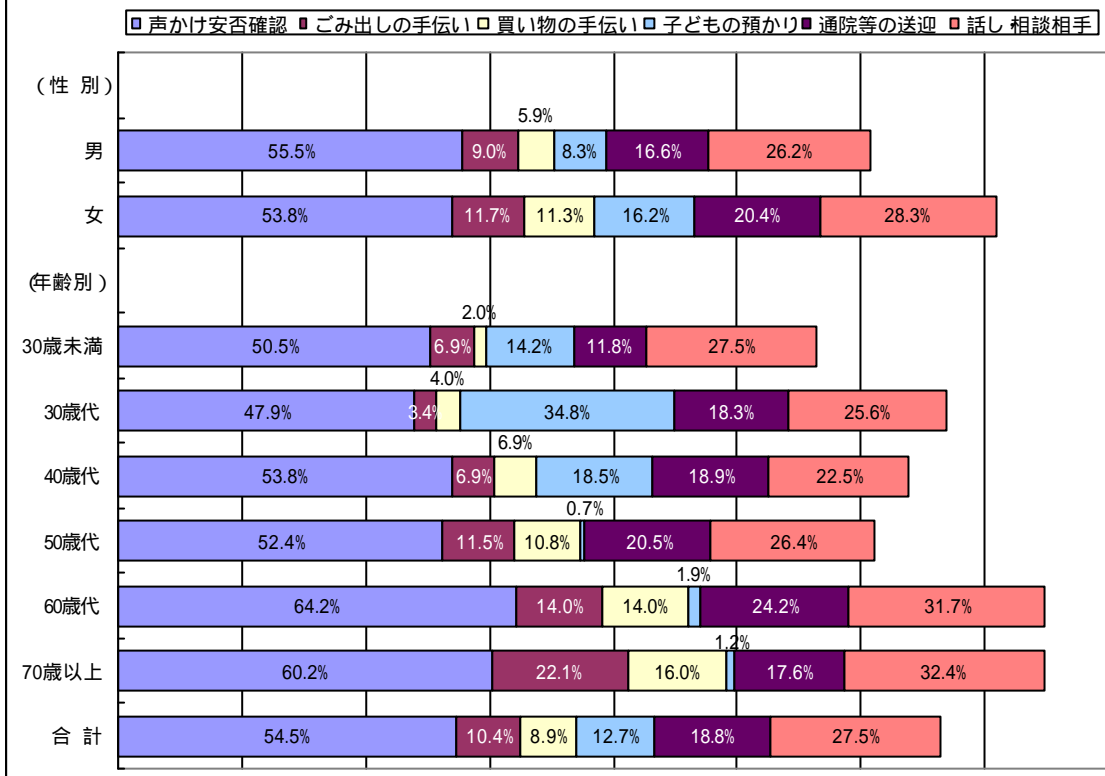
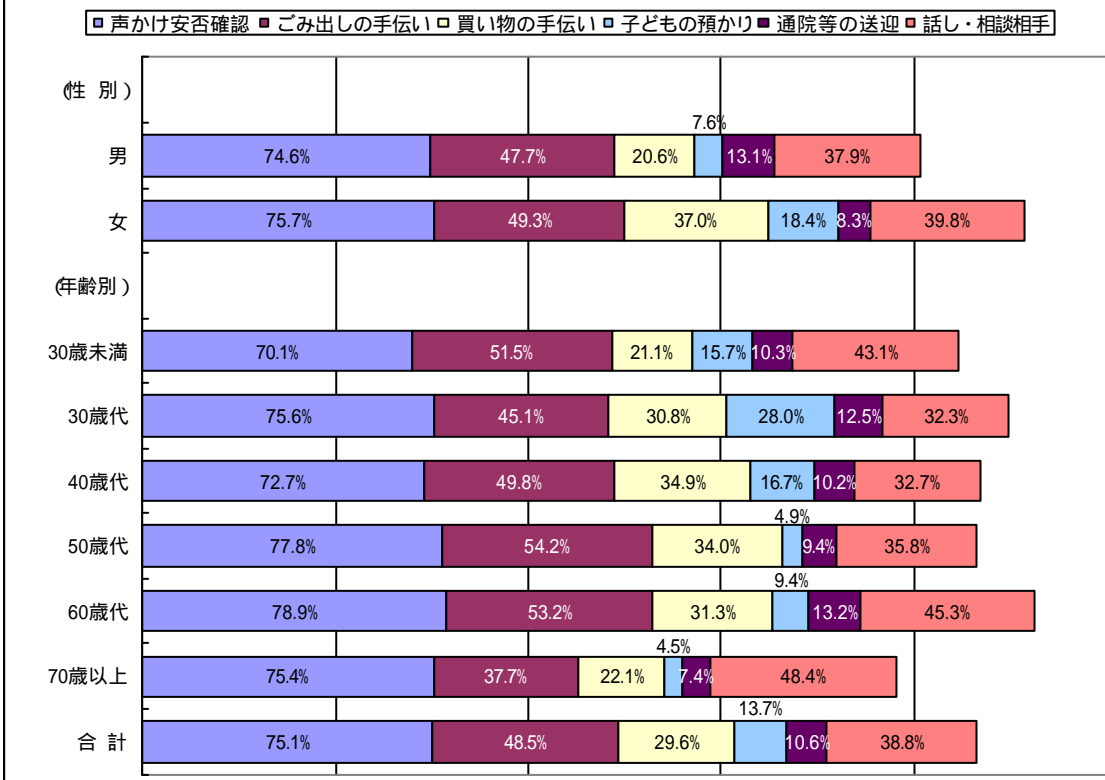


図 問31 近隣の方に頼まれてできること (選択数3) (性別・年齢別)



問3 2 近隣の方で、ちょっと困っている人がいた場合に、あなたは、個人的に手助けするのと、ボランティアなどのグループに参加して手助けするのでは、どちらが手助けしやすいと思いますか。(あてはまるものを1つ選んでください。)

1 個人的に手助けする方がしやすい	304	18.9%
2 どちらかと言うと個人的に手助けする方がしやすい	486	30.2%
3 どちらかと言うとボランティアなどのグループに参加して手助けする方がしやすい	518	32.2%
4 ボランティアなどのグループに参加して手助けする方がしやすい	246	15.3%
無回答	55	3.4%

「困っている人がいた場合」「個人的に手助けする」か「ボランティアなどのグループで手助けする」かを質問した。「どちらかという」とを含めて「個人的に」は49.1%、「どちらかという」とを含めて「グループで」が47.5%で、意見は大きく分かれていた。

地域別に見ると意見の相違が目立っている。「個人的に」が多い順で、新吉田あすなろ、太尾、高田地区などでは「グループで」を10ポイント以上上回っていた。逆に「グループで」が多い順では、樽町、新吉田、網島、日吉地区などで「個人的に」を10～20ポイント以上上回っていた。

回答者の属性で見ると、性別ではほとんど変化は見られなかった。

年齢別で見ると、「40歳代」以下の層では「グループで」が大きく上回っていたが、「50歳代」は平均値で、「60歳代」を超えると「個人的に」が半数を越え「70歳以上」で最も大きくなる傾向が見られた。

住居の形態別では、「一戸建て」で「個人的に」が大きく、「マンション」は「グループで」が多くなっていた。

子どもの年齢別で見ると、「12歳以下」の層で「グループで」が多く、「19歳以上」で「個人的に」が多くなっていた。

就労状況別で見ると、「自営業」、「専業主婦」、「就労していない」層では「個人的に」が圧倒的に多く、「会社員・公務員」、「学生」、「パート・アルバイト」では「グループで」が多くなっており、勤務先で就労している人と自宅にいる人での差が大きく出ている。

図 問32 個人的な手助けか、グループでの手助けか (地域別)

個人的に手助けする方がしやすい
 どちらかと言えば個人に手助けする方
 どちらかと言えばグループに参加して
 グループに参加して手助けする方が
 無回答

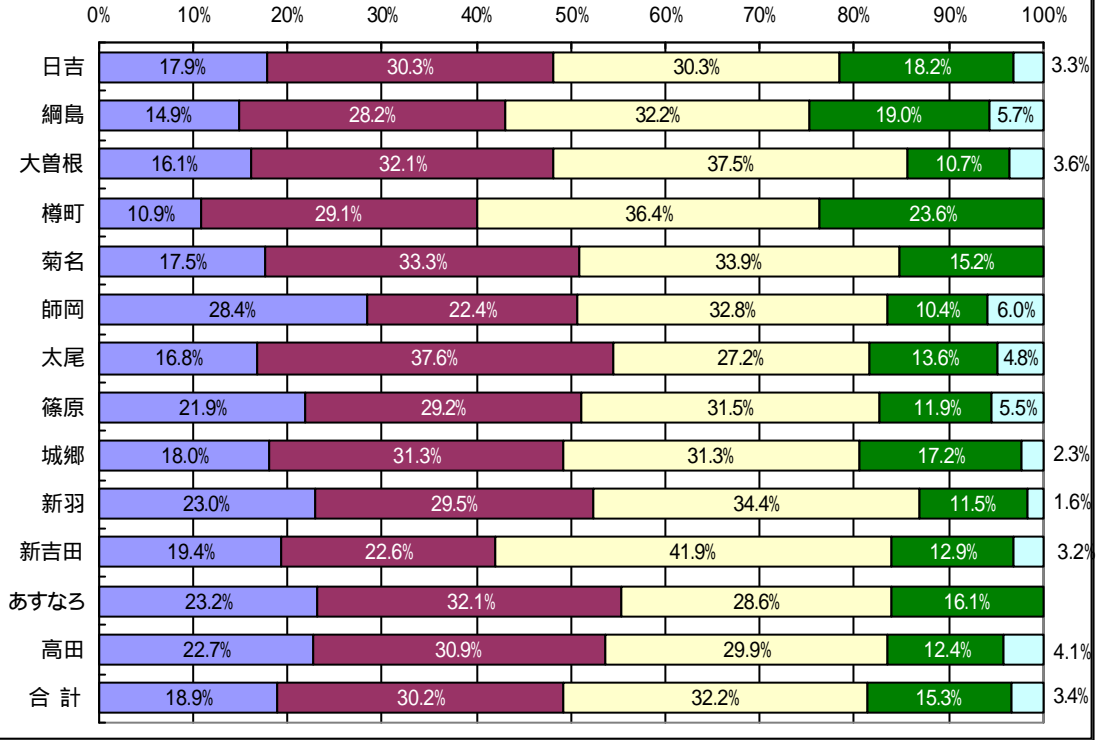
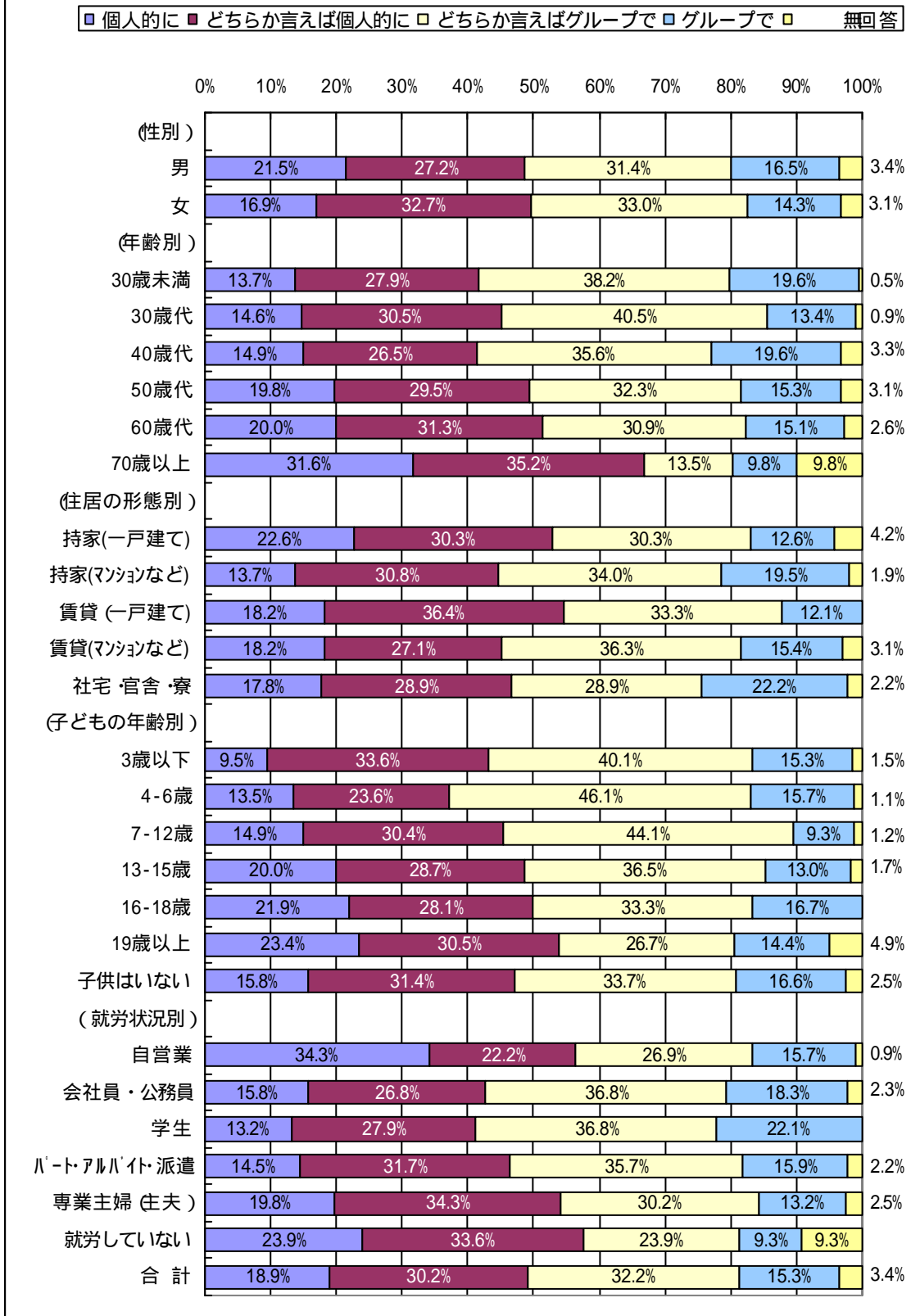


図 問32 個人的手助けか、グループで手助けか
(性別・年齢別・住居の形態別・子どもの年齢別・就労状況別)



問33 次の役職うち、あなたが知っているものはどれですか。

(あてはまるものをすべて選んでください。)

1 民生委員・児童委員	1261	78.4%
2 保健活動推進委員	358	22.2%
3 友愛活動推進委員	43	2.7%
4 食生活改善等推進委員(ヘルスマイト)	151	9.4%
無回答	318	19.8%

問34 あなたの地区の民生委員はどのような役割で、誰かを知っていますか。

(あてはまるものを1つ選んでください。)

1 役割を知っているが、誰かも知っている	263	16.3%
2 役割を知っているが、誰かは知らない	617	38.3%
3 役割を知らないが、誰かは知っている	88	5.5%
4 役割を知らず、誰かも知らない	589	36.6%
無回答	52	3.2%

問33では、地域の役職について「知っているもの」を質問した。「民生委員・児童委員」については78.4%で8割近い人が知っており、「保健活動推進委員」については2割強の人が知っていたものの、その他はほとんど知らない状態であった。

また、問34では、一番多く「知っている」と答えた民生委員について「役割と、誰かを知っているか」を質問した。「役割も、誰かも知っている」と答えたのは16.3%でわずかにすぎず、「役割は知っているが、誰かは知らない」が38.3%で4割近くであり、「役割も、誰かも知らない」が36.6%で3分の1以上であった。この答えから、「誰かは知らない」がほぼ4分の3になっていた。

問33の「地域の役職で知っているもの」について、地域別に見ると、大曾根地区で「友愛活動推進委員」を除いた役職についての認知度が平均を6～15ポイント上回っていること、城郷地区でも「保健活動推進委員」、「食生活改善等推進委員」の認知度が8～10ポイント程度高いのが特徴的であった。

回答者の属性では、地域の役職の認知度について、女性が男性を10ポイントほど上回っていた。

年齢別に見ると、「30歳未満」は「民生委員・児童委員」でわずか42.6%で4割程度の認知度であり、他の役職についてはほとんど知らない状態であり、年齢が上がるにしたがって認知度が高くなっていき、「60歳代」がピークとなっていた。また「50歳以上」では民生委員の認知度は9割になっていた。

住居の形態別で見ると、「持ち家・一戸建て」がすべての役職で最も認知度が高く、「賃貸・一戸建て」、「持ち家・マンション」、「賃貸・マンション」の順に認知度が下がる傾向となっていた。

図 問33 地域の役職で知っているものは(複数回答)(地域別)

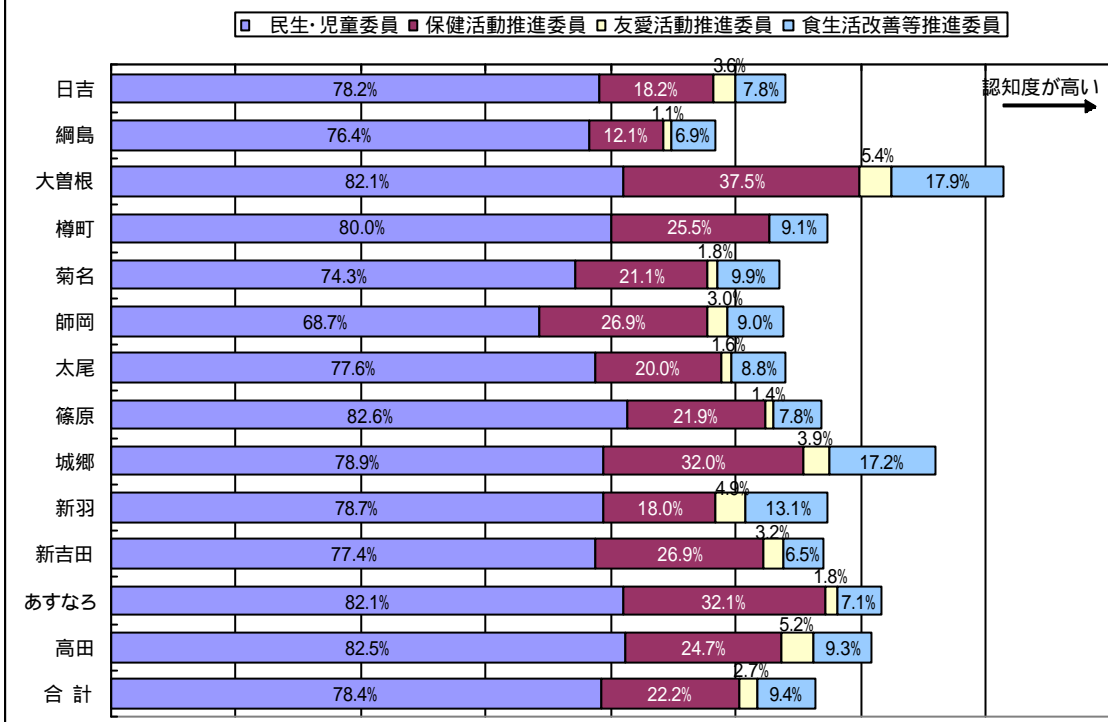
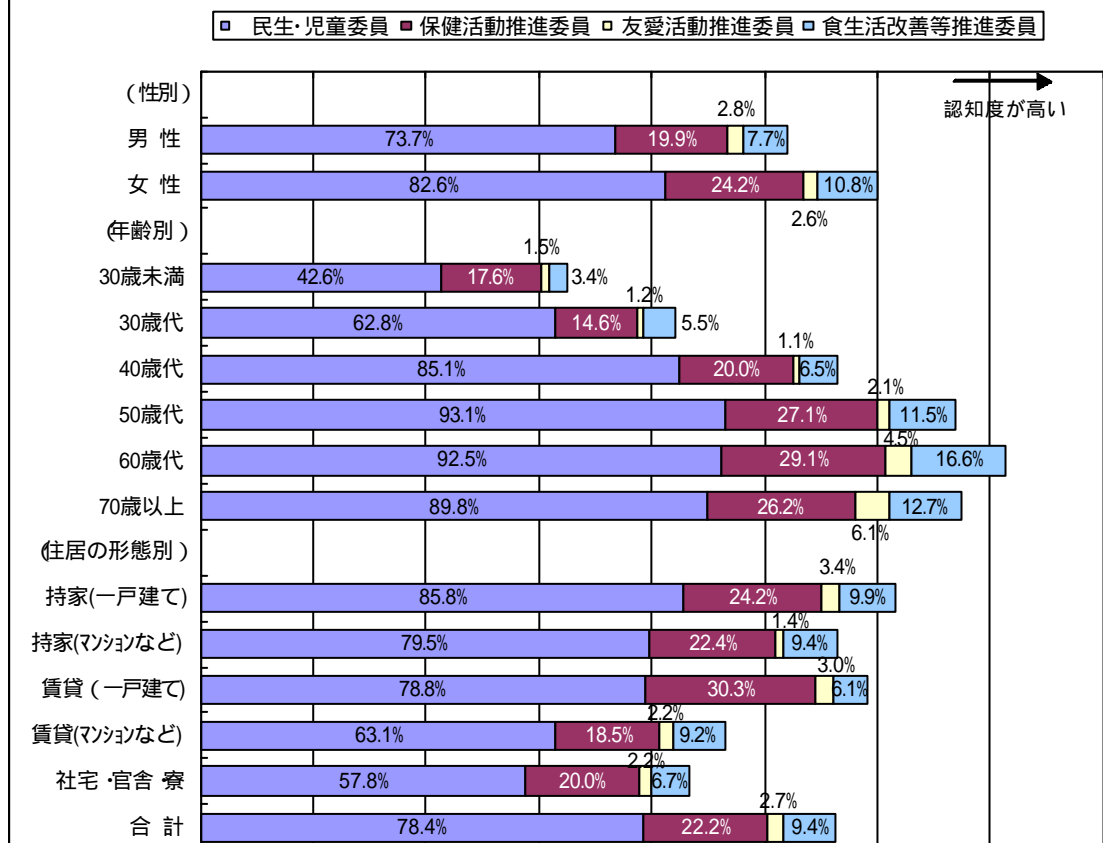


図 問33 地域の役職で知っているもの(複数回答)
(性別・年齢別)



問 34 の「民生委員の役割と誰かを知っているか」について、地域別に見るといくつかの差が見られた。「役割も誰かも知っている」の最も多かったのは大曾根地区で 28.6 %と 3 割近く、吉田、城郷地区でも 2 割を超えていた。逆に、「役割も誰かも知らない」のは菊名地区で 46.8 %にのぼり、樽町、新羽地区でも約 4 割が「知らない」となっていた。

回答者の属性で見ると、「役割も誰かも知っている」のは女性が男性を 7 ポイント上回っていた。

年齢別で見ると「30 歳未満」と「30 歳代」ではほとんど知られて居らず「役割も誰かも知らない」がそれぞれ 76.0 %、58.8 %と圧倒的に多かった。年齢が上がるにしたがって「知っている」割合は増加し、「70 歳以上」になると 42.6 %と 4 割以上の人が「役割も誰かも知っている」と答えていた。

住居の形態別では、「持ち家・一戸建て」は 25.7 %で約 4 分の 1 が「役割も誰かも知っている」と答えたが、他の層では平均の半分にとどまっていた。

また、居住歴別で見ると、「3 年未満」、「3 ~ 5 年」では「知っている」人はほんのわずかで「役割も誰かも知らない」が 5 割を超えていた。「6 - 10 年」では「役割は知っているが誰かは知らない」が 45.1 %高くなり、「11 年以上」の居住歴になると「役割も誰かも知っている」が増え、「21 年以上」では 33.3 %と 3 分の 1 が知っていると答えていた。

家族構成別で見ると、「夫婦だけ」と「3 世代」で「知っている」が 4 分の 1 と多く、「2 世代」では少なくなっていた。

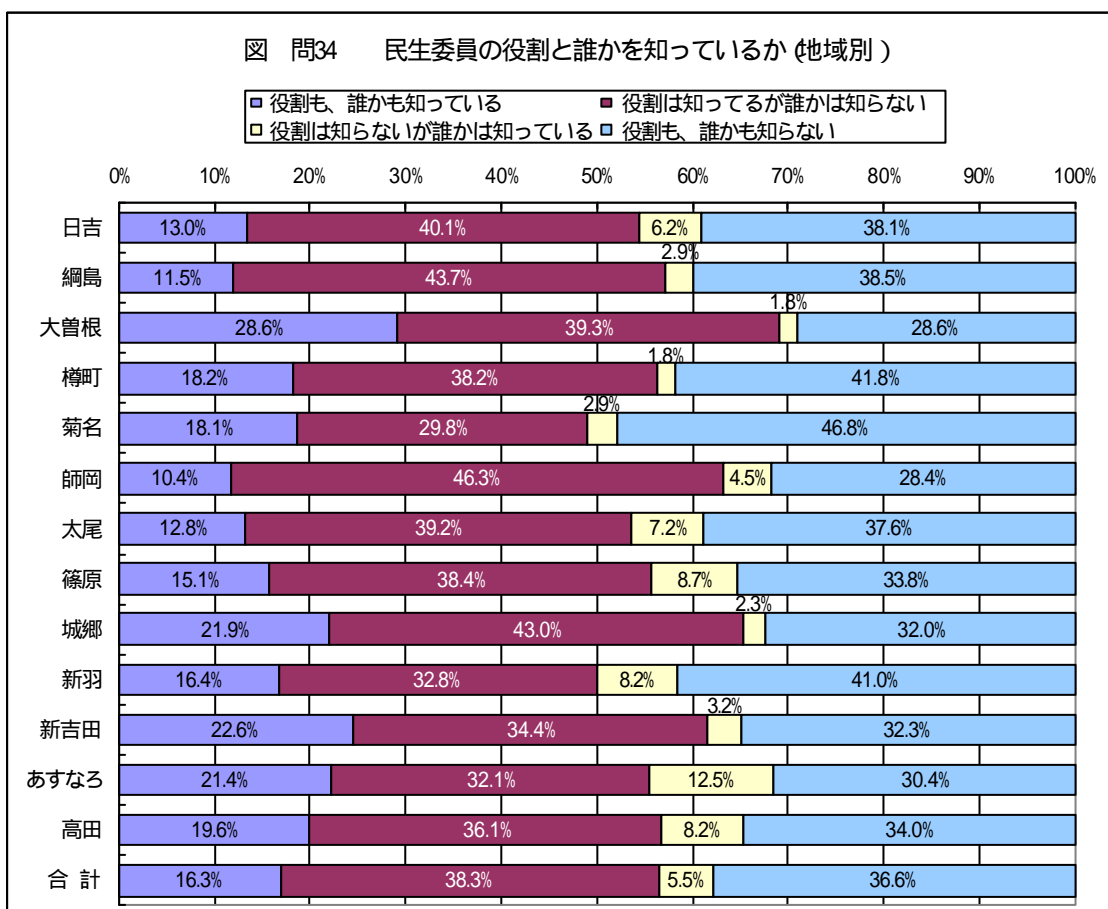
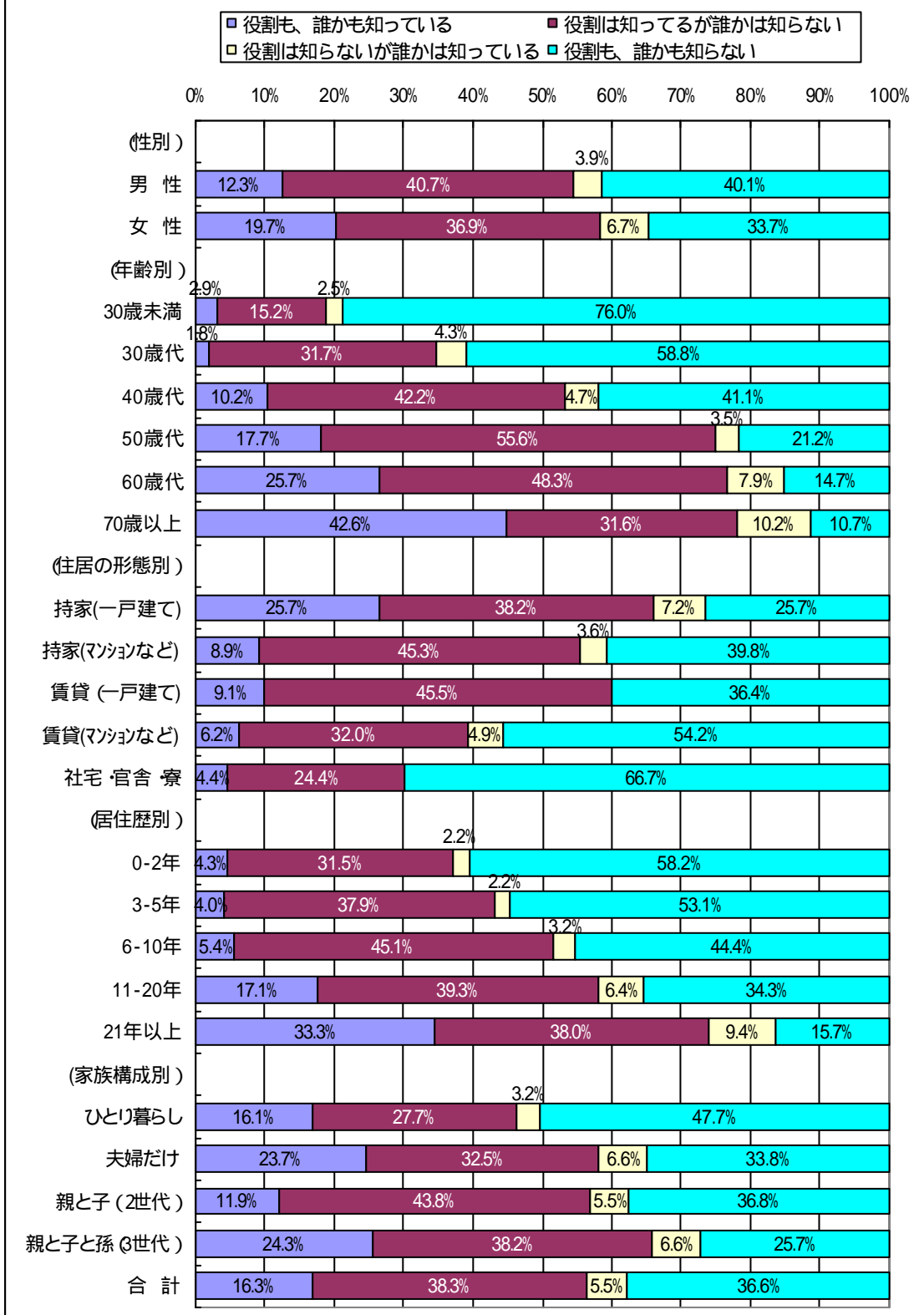
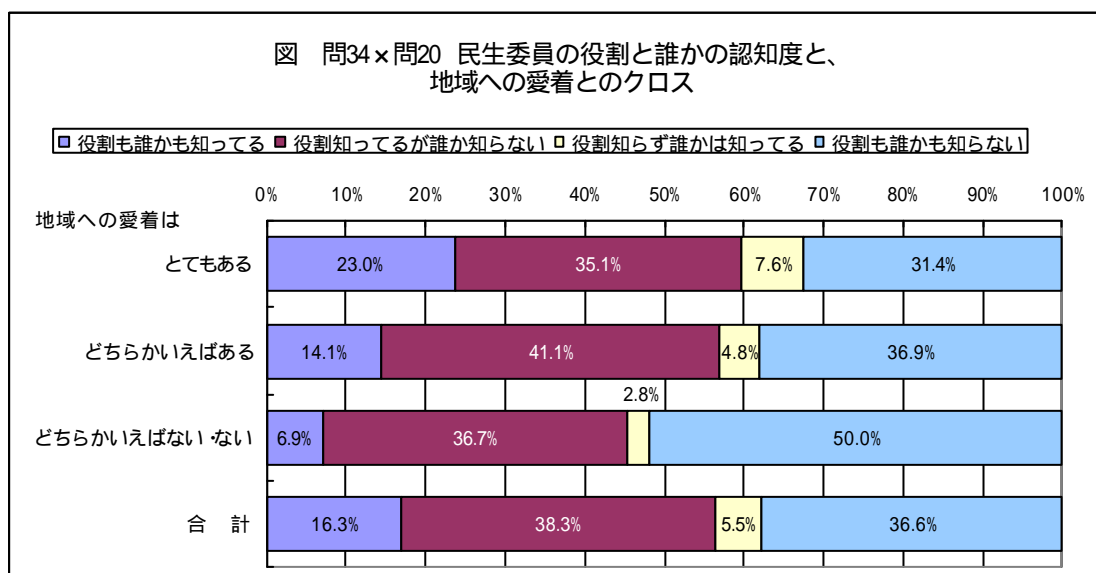
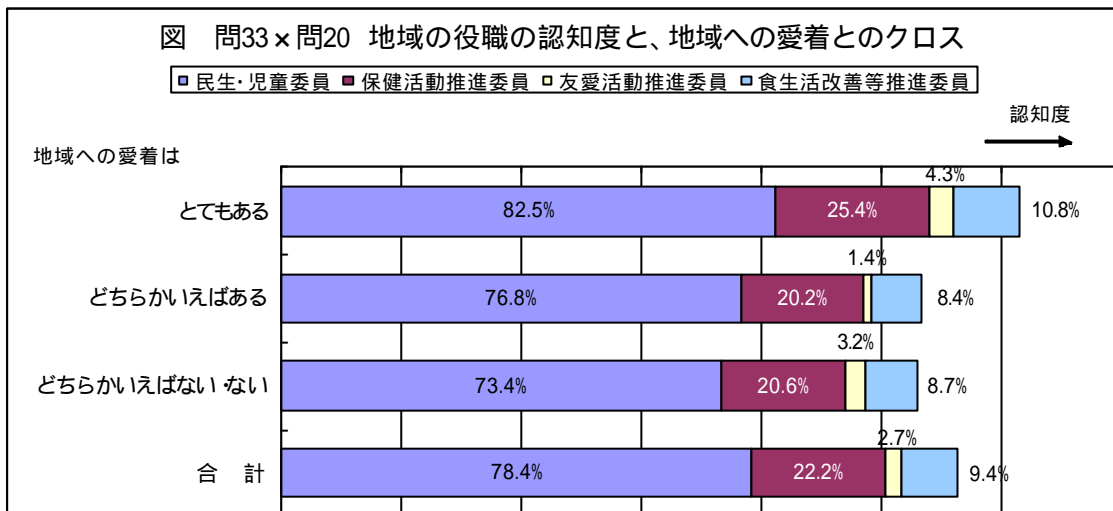


図 問34 民生委員の役割と誰かを知っているか
(性別・年齢別・住居の形態別・居住歴別・家族構成別)



問 33 の「地域の役職のうち知っているものは」と、問 20 の「地域への愛着」とをクロス集計してみた。「地域への愛着」が「とてもある」人は、「地域の役職」について知っている割合が最も高く、「どちらかと言えばある」と答えた人より各役職で 5 ポイントほど上回っていた。「どちらかと言えばある」と答えた人と「どちらかと言えばない」と答えた人の間では、「民生委員・児童委員」についての認知度が 3 ポイントほど差があるだけでこの両者にはあまり大きな差は見られなかった。

問 34 の「民生委員の役割と誰かを知っているか」と、問 26 の「地域への愛着」とをクロス集計してみた。ここでも「地域への愛着」が「とてもある」人の認知度は「役割も誰かも知っている」割合が 23.0 % と最も高く、「地域への愛着」が「ない」人の認知度が低くなっている傾向を読み取ることができた。



問35 介護や子育て、障害者の生活上の困りごとやボランティア活動などについて専門的な相談を行っているつぎの施設のうち、あなたが知っているものはどれですか。(あてはまるものをすべて選んでください。)

1 育児支援センター園(港北保育園)	233	14.5%
2 障害者地域活動ホーム	331	20.6%
3 障害者支援センター(港北ラポール内)	507	31.5%
4 地域ケアプラザ	887	55.1%
5 介護支援事業所	221	13.7%
6 港北区福祉保健センター	758	47.1%
7 港北区社会福祉協議会	445	27.7%
無回答	338	21.0%

問36 地域ケアプラザの役割のうち、あなたが知っているものはどれですか。(あてはまるものをすべて選んでください。)

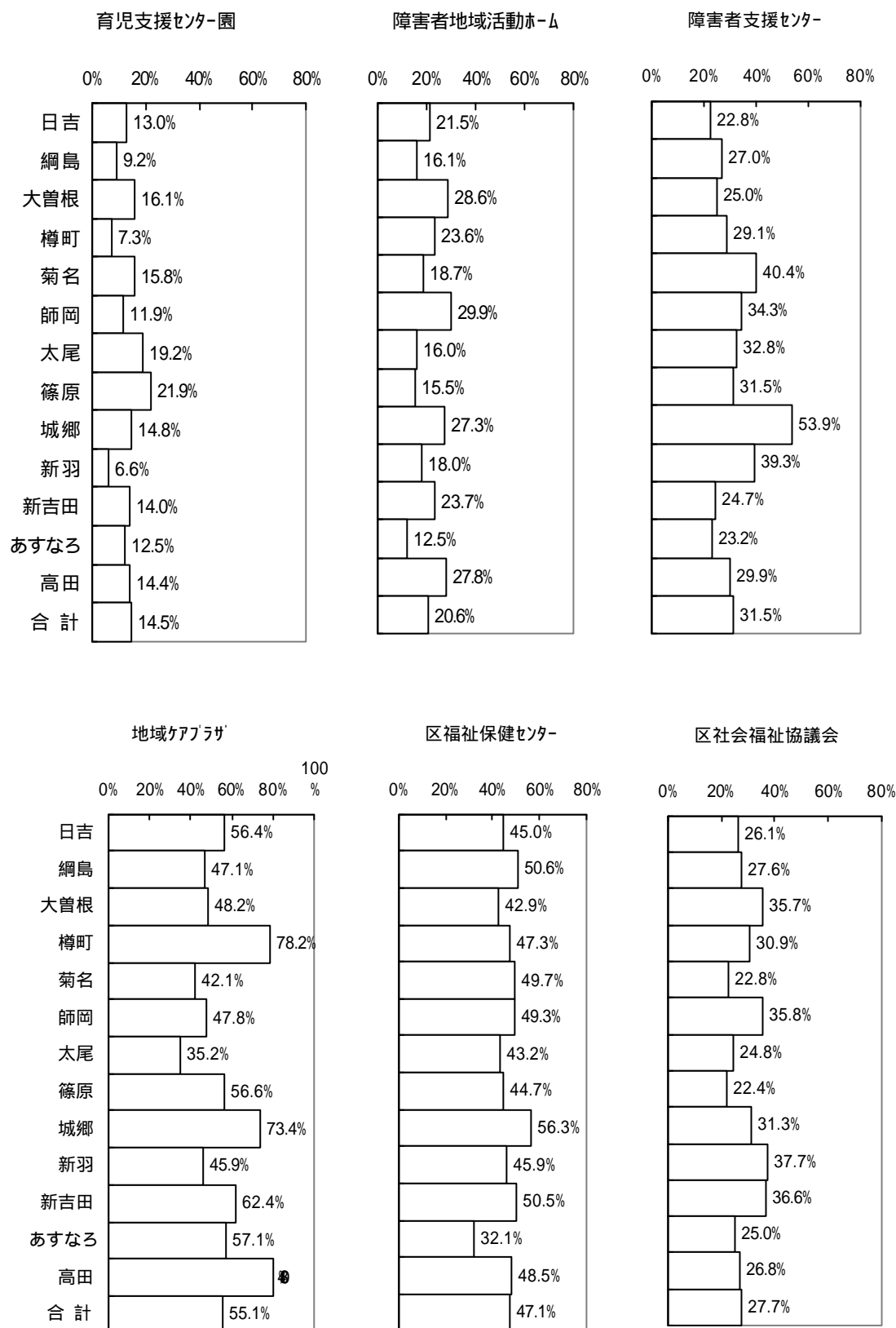
1 子育てに関する相談業務	240	14.9%
2 障害者(児)に関する相談業務	299	18.6%
3 高齢者に関する相談業務	709	44.1%
4 地域交流活動の支援事業	331	20.6%
5 デイサービスやケアプラン作成などの介護保険事業	547	35.7%
6 地域ケアプラザの役割を知らない	282	17.5%
7 地域ケアプラザ自体を知らない	357	22.2%
無回答	198	12.3%

問35では、地域で専門的な相談を行っている施設で知っているものを質問した。「地域ケアプラザ」が最も多く55.1%と5割以上であり、「区福祉保健センター」が47.1%5割近くと続いていた。少し離れて「障害者支援センター」と「区社会福祉協議会」が約3割前後で続き、その他の施設は1割台の認知度であった。まったく答えのない無回答が2割を超えており、「施設を知らない」人がかなりいたことになる。

問36では、前問で最も認知度の高かった「地域ケアプラザ」について、その役割で知っているものを聞いた。「高齢者に関する相談業務」が44.4%と4割強で最も高く、「介護保険事業所」が約3分の1の認知度であり、「地域交流活動の支援」が約2割であった。また、「地域ケアプラザの役割を知らない」「地域ケアプラザ自体を知らない」が合わせて39.7%で約4割あり、地域の福祉施設の中心を担う役割を持つ施設としての認知度は、まだ低い状態であった。

問35で「地域の専門的な相談施設で知っているもの」について、地域別に見ると差が見られた。全般的に施設の知っている割合が高いのは城郷地区で、「障害者地域活動ホーム」で平均を22ポイント、「地域ケアプラザ」で8ポイント、「区福祉保健センター」で9ポイント、「区社会福祉協議会」で10ポイントそれぞれ高くなっていた。そのほか、高田地区で、「地域ケアプラザ」を8割が知っていると答えているのが特徴的であった。逆に、

図 問 35 地域の相談施設の認知度（複数回答）（地域別）

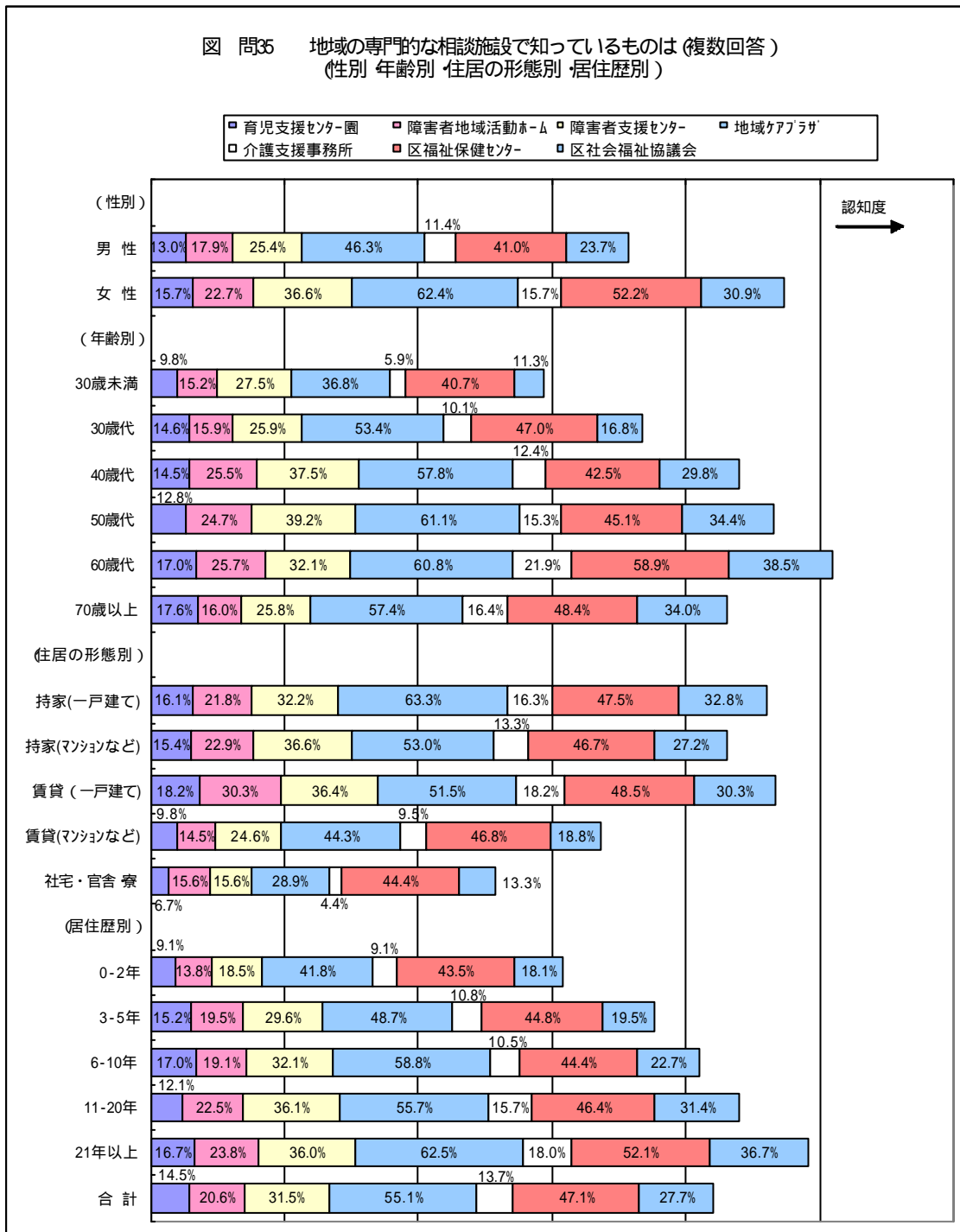


認知度の低いのは新吉田あすなると太尾地区で、新吉田あすなろ地区では「区福祉保健センター」の認知度が平均を45ポイント下回り、太尾地区では、「地域ケアプラザ」が20ポイント低くなっていたことが認知度を低くしていた。

回答者の属性で見ると、女性が男性より全般的な認知度が高かった。

年齢別では、「30歳未満」が最も低く加齢に従って認知度は上昇していた。

居住歴別でも、「3年未満」の人は最も認知度が低く、居住歴が増えるに従って認知度は増加していく傾向が明らかになっていた。



問36で「地域ケアプラザの役割で知っているもの」について、地域的に見るといくつかの違いが見られた。役割をよく知っているのが高田、城郷、樽町地区で、「高齢者相談業務」の認知度が平均をそれぞれ18, 13, 14ポイント、「介護保険業務」で19, 7, 17ポイントと平均を上回っていることが目立っている。逆に、「役割」「ケアプラザ自体」を「知らない」割合が高いのは菊名地区で5割を超え、網島、太尾、大曽根、新羽地区で平均を5～8ポイント上回っていた。

回答者の属性で見ると、ここでも女性の認知度は男性を大きく引き離し、「高齢者相談」で10ポイント、「介護保険業務」で22ポイント上回っていた。

年齢別では、「30歳未満」は「役割」「ケアプラザ自体知らない」を合わせた「知らない」が6割であり、加齢に従って認知度は増加し、「60歳代」でピークとなっていた。

住居の形態別では、「持ち家・一戸建て」が高く、居住歴別では、「3年未満」は「知らない」が56%と高くなっており、居住歴が長くなるに従って認知度が増加していた。

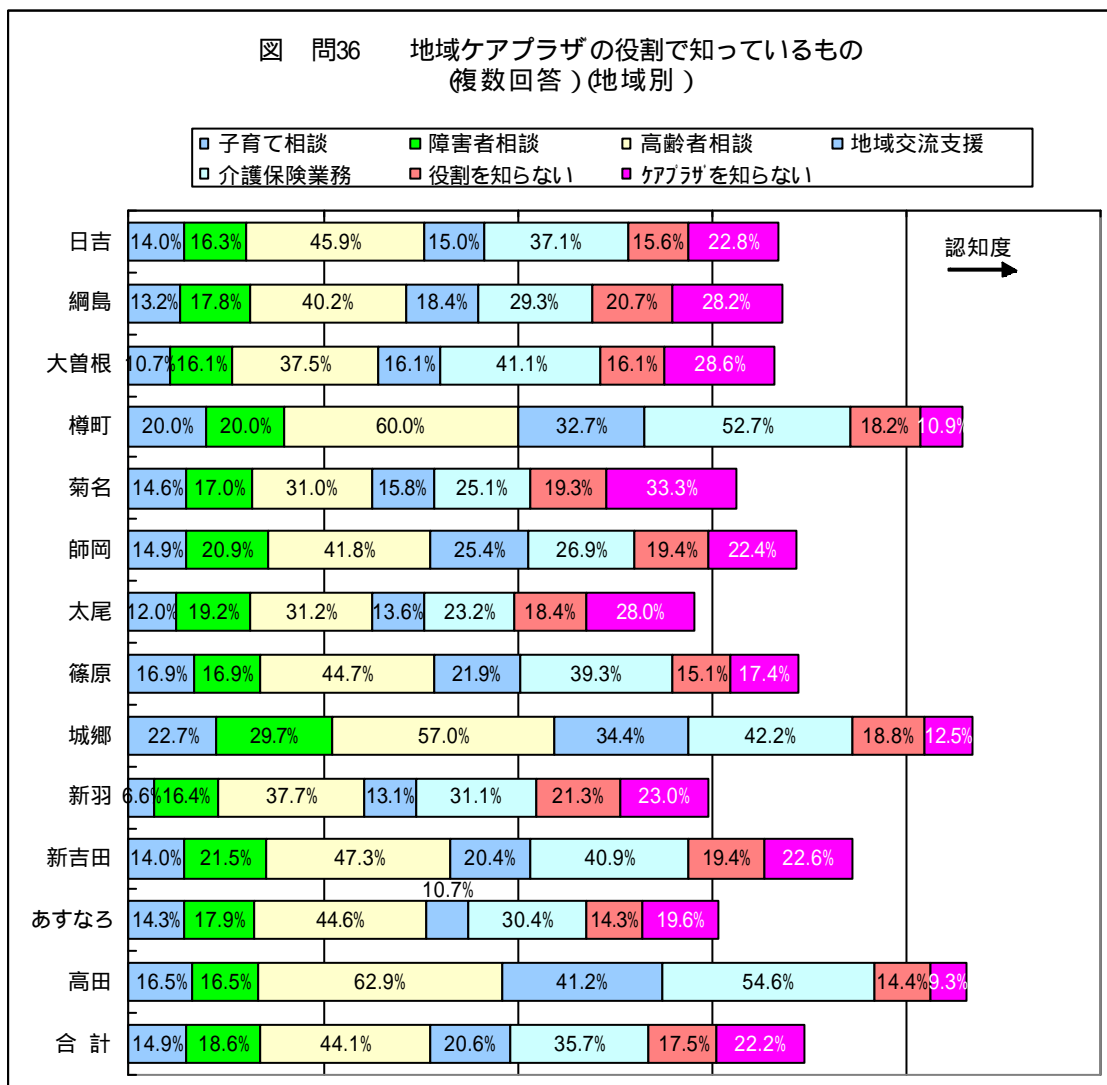


図 問36 地域ケアプラザの役割で知っているもの
(複数回答)性別・年齢別・住居の形態別・居住歴別)

□子育て相談 □ 障害者相談 □ 高齢者相談 □ 地域交流支援 □ 介護保険業務 □ 役割を知らない □ ケアプラザを知らない

